

# そのほかのメモリアル事業など



しる  
標す

台風23号時に2.4メートルの水位を記録した庄境内。除幕式の後、背丈をはるかに超える標柱を見上げ関係者は気を引き締めていた

## 水害の脅威を記憶に留める 台風23号の浸水水位を示す標柱設置

10月19日、庄境内内の市営一本松住宅駐車場で、台風23号の浸水水位を示す標柱の除幕式を行いました。これは、台風23号の水害の教訓を風化させることなく、市民の記憶に永く留めようという願いを込めて、豊岡および豊岡円山川の両ロータリークラブから寄贈を受けた標柱を市が設置したものです。標柱は、12センチ角の青いステンレス製で、台風23号時の水位を赤いラインで表示しています。年度内に浸水被害の遭った市内40カ所に0.2~3.1メートルの標柱を設置する予定です。

除幕式では、中貝市長が地元住民ら約30人を前にして「人間の努力を上回る自然の脅威は必ずやって来ます。この柱は、我々が緊張の糸を緩めないために心に打ち込む楔くわです」と述べました。

## 災害の爪あとを訪ねる 災害現地見学会

10月20日、市内の台風23号の災害現地や水防施設を見て回る災害現地見学会を開催しました。

市民約40人が、市内で特に被害がひどかった豊岡市立野や日高町赤崎、出石町鳥居を訪れ、国土交通省職員から当時の被害状況や復興事業の進捗状況などの説明を受けました。また、円山川防災センターや六方排水機場、円山川・出石川の決壊現場で活躍した排水ポンプ車や照明車なども併せて見学しました。

竹野町小城から参加した滝下安雄さんは、「昨年、テレビで市内の無残な被害状況を見て、一度現地を訪れたいと思い参加しました。災害現地周辺に住む住民の皆さんの不安が早く取り除けるように復興事業がスムーズに進むことを願います」と話していました。



巡る

災害現場で説明を聞き入る見学者。「どれくらいの高さまで浸水したのか」など多くの質問が出された



育む

雨が降る中、30~40センチの苗木を植える参加者

## 災害に強い森づくり ふるさとの森づくり記念植樹

10月23日、豊岡病院西側斜面で「ふるさとの森づくり」の記念植樹が開催されました。

台風23号によって但馬各地で山崩れが多発した状況を踏まえ、災害を防ぎ、自然環境を保全し、安らぎを与えてくれる森を作り上げようと、たじま農業協同組合の主催により取り組まれました。

当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、農協関係者や地元子ども会など約200人が参加し、但馬の風土に合ったシイ、タブ、カシなどの苗木約3,400本を1時間ほどかけて植えました。植樹方法の説明をした除 国林博士は、「災害に強い森を作るためには多様性が必要です。ふるさとに適したさまざまな木々が防災効果の高い豊かな鎮守の森を作り上げるでしょう」と話していました。



河川の越水を想定して、土のうを積み上げる消防団員

## あの日を思い出し夜間に水防訓練 豊岡消防団・水防工法勉強会

10月20日、神美小学校グラウンドで豊岡消防団による水防工法勉強会が実施されました。勉強会が行われた同日の1年前の午後9時ごろは台風23号がもっとも但馬に接近し、円山川下流域では水位が最高位に達した時間帯でした。

夜間照明に照らされたグラウンドには約400袋の土のうが準備され、台風23号を機に各分団2人ずつ任命された水防指導員など約100人が、河川の越水や漏水に対応する水防工法を体験しました。

西垣豪太郎団長は、「回を重ねていくうちに手際がよくなっています。学んだ工法を地域の自主防災組織にもぜひ伝えてください」と団員に呼びかけていました。

## 躍動感あふれる演技に魅了 デンマーク体操豊岡公演

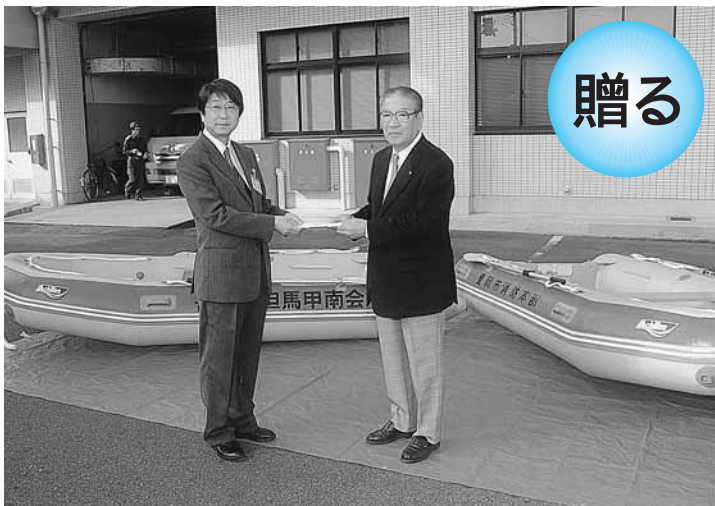
10月19日、豊岡市民体育館で、「日本・デンマーク国際体操文化交流フォーラム」が開催されました。

デンマーク体操を披露するために来日中の約40人の若者選抜チームを、台風23号で被災した豊岡市民の心を癒すために、豊岡および豊岡円山川の両ロータリークラブなどが招いたものです。

トランポリン、あん馬、クラブ、ボールなどを使った一糸乱れぬ華麗な団体演技が披露される度に、約200人の観衆から大きな拍手が起こっていました。



鍛錬された若者の力あふれる演技に観衆は魅了された



目録を市長に渡す但馬甲南会の植田会長。これで豊岡市消防本部が所有するボートは6艇に

## 災害救助に役立てて 但馬甲南会・ボート寄贈

10月21日、但馬在住の甲南大学卒業生で組織される但馬甲南会から、豊岡市消防本部に災害救助用ボート2艇が寄贈されました。

同会は、台風23号の復興支援活動に取り組みたいと、今春から全国の同大学の卒業生に呼びかけ基金を募っていました。寄贈された2艇は、長さ3.7メートル、定員6人のオール付きの手漕ぎ式ボートです。

贈呈式で同会の植田栄助会長は、「被災した会員もいたので何かお手伝いしたいと思っていました。このボートが今後の災害救助に役立てばうれしいです」と話していました。

# 安全安心なまちを目指す 豊岡市の取組み



「台風23号水害の経験を決して無駄にしない」という強い信念のもと、市では、安全安心なまちづくりに関するさまざまな取組みを急ピッチで進めています。

市町合併を機に、防災対策の専門部署を設置するとともに、情報収集・伝達方法の検討、地域防災計画の見直しなどを行っています。

## 地域防災計画の策定 年度内を目途に 実効性のある計画を

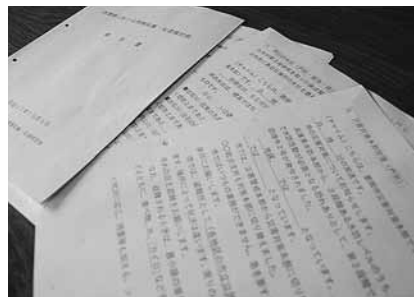
地域防災計画は、生命や身体、財産を災害から守り、安心して暮らせるまちを実現することを目的とした総合的な計画です。風水害、地震などの災害を想定して、地域災害の予防、応急、復旧対策などを示します。

市では、旧市町で定めていたそれぞれの防災計画を見直し、新市として地に着いた実効性ある防災計画を、本年度内を目途に策定することになっています。

## 情報収集・伝達の 在り方を検討

## 平易な言葉で わかりやすく

台風23号災害において、自治体の情報収集と伝達のあり方が大きな課題となりました。市では、8月に民間委員を含めた11人の検討会を設置し、水害時における効果的な改善策について検討を行い、10月に報告書をまとめました。特に重点的に取り上げてい



台風23号を教訓にして作成された水害時の防災行政無線(有線)の放送用例文

るのが、防災行政無線・有線設備による放送の内容と方法です。どの時点でもどのように表現するのかを考え、台風接近から避難指示・決壊までを想定した14種類の例文を作成しました。また、「破堤」を「決壊」に、「越水する・溢水する」を「あふれ出す」など、専門用語をできるだけわかりやすい言葉に置き換え、緊急性を与える表現方法も検討しました。9月の台風14号接近の際には、早速活用しました。

## 防災・減災研修会の実施 防災意識を高める

安全安心なまちをつくるには、まず、みんなが防災意識を持つことが必要だといわれています。

市では、市職員はもちろん、消防団員、区長・自主防災組織役員、民生委員などの地域リーダーを対象にして、防災・減災研修会やシンポジウムを実施してきました。(延べ10回、参加者1,711人)

地域や団体から要請を受けて行う防災に関する出前講座の利用も延べ13回、457人にのぼっています。

## 避難所備蓄物資の充実 学校、公民館などに 物資備蓄

但馬広域防災拠点の備蓄物資のみに頼ることは、道路状況などにより支障が生じてしまつことが台風23号で判明しました。

この教訓に基づき、市では、新たに市立の学校、公民館、さらには豊岡高校、豊岡総合高校、市民プラザなどの主要避難所に毛布や水などの物資を備蓄しました。

## 洪水ハザードマップの 作成

洪水などにより浸水が予想される区域や避難所などの情

報を地図上に表示したものが洪水ハザードマップです。

このマップには、円山川や出石川など市内の主要な河川が大雨により氾らんした場合の情報や、普段心がけておくことなどを掲載します。

今後、皆さんの意見も反映させて作成作業を進め、来春に配布の予定です。

## 避難所の見直し 民間施設も 積極的に指定

洪水ハザードマップの作成にあたり、避難所の見直し作業も行っています。「近いところに避難所を増やしてほしい」という市民の皆さんの要望も踏まえて検討を進めてきました。台風23号による浸水実績および国が公表している浸水想定区域と照らし合わせると、どうしても応えられないところがあります。

今回、新たに多くの民間施設の協力も得られた結果、避難所は市内全体で40カ所増え、220カ所となりました。

今後、必要に応じて随時見直しを行います。

# 被災世帯に聞く 復興の現状は？

## 台風23号被災者アンケート調査結果

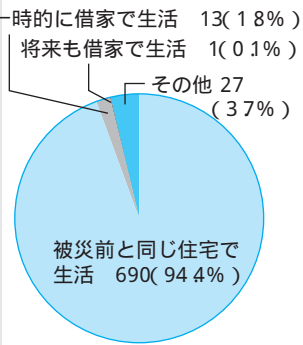


台風23号で全壊および大規模半壊の被害認定を受けた方全員を対象としたアンケート調査を8月末に実施しました。

大きな被害を受けた道路や河川などの整備が進み、市全体としては一見復旧・復興が順調に進んでいるように感じられる一方、思うように進んでいない世帯もあることが調査結果から伺えます。

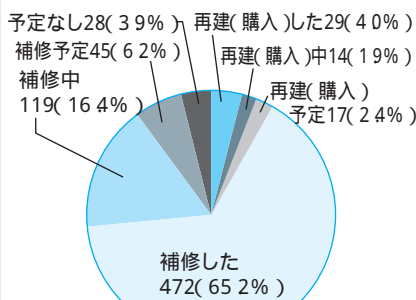
【持ち家の方に質問】

現在の生活の様子は？



10カ月が経過して、持ち家の被災者は、ほぼ自宅で生活できるようになりました。

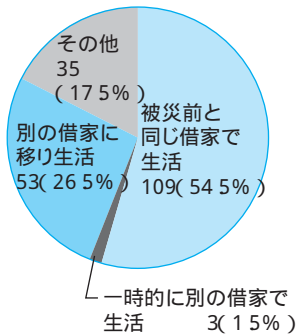
住宅の再建・補修の考えは？



69%の世帯が再建・補修を終えています。また、進行中の世帯が18%ありましたが、資金不足などの理由により「予定なし」と答えた世帯が4%ありました。

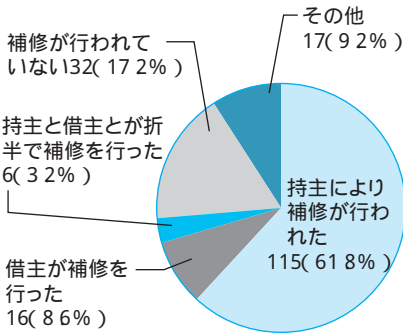
【借家の方に質問】

現在の生活の様子は？



5割強が被災前と同じ借家で生活していますが、被災を機に別の借家に転居した世帯が27%もありました。

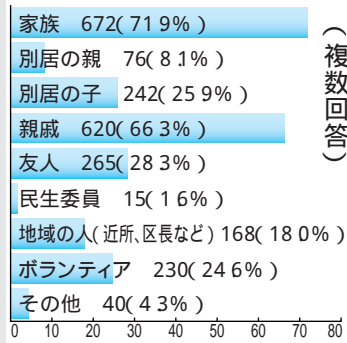
借家の補修は？



まだ17%の世帯で借家の補修が行われていない状況です。

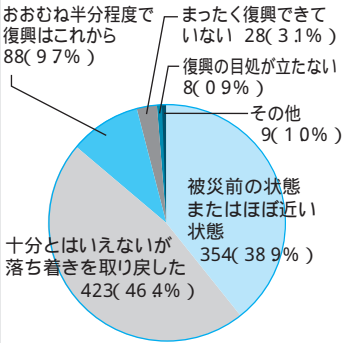
【持ち家・借家双方に質問】

復興にあたって誰が支えに？



家族や親戚などが支えになったという意見が予想どおり高い数値を示しましたが、「地域の人」、「ボランティア」と答えた人も多くありました。

精神面も含め全体的な復興具合は？



「復興はこれからきていない」などの回答が1割以上ありました。

先の質問で「十分に復興できていない」と考える理由

- ・直したいが資金が足りない
- ・借入金の返済
- ・河川工事が完成しないと、また被害に遭うため、本格的な修理ができない
- ・大工さんの順番が来ない
- ・将来の生活が不安
- ・台風が発生や雨で不安になる
- ・精神的な傷が癒えない

アンケート対象  
全壊 530件  
大規模半壊 1,104件  
合計 1,634件  
回収率 57.2%

最後に「語り継ぐあの時の記憶」をテーマに台風23号、あれから1年」を特集しました。あの災害は私たちに多くの試練を与えましたが、一方で、人と人との絆の大切さを改めて教えてくれました。この災害がもたらした正と負の両面が、今後、安全安心のまちづくりの教訓として語り継がれることを願います。最後に、被災された皆さんが一日も早く元の生活を取り戻されるようお祈りします。